

れいわ ねん ど だい かいこうふし たぶん かきょうせいすいしんいんかいかいぎろく
令和8年度 第1回甲府市多文化共生推進委員会会議録

- 1 開催日時 令和8年6月29日（月）午後3時15分～午後4時15分
- 2 開催場所 本庁舎7階 会議室7-2
- 3 出席者 委員8名
萩原孝恵委員長、三井さや花委員、アハマド・サジャド委員、
佐藤達也委員、畑晴夫委員、高岸 貢 委員、
徐芸委員、渡辺 郁 委員
- 4 欠席者 伊藤孝恵委員、内藤裕利委員、赤池ミッシェリ委員
- 5 議 事 (1) 委員長の選出
(2) 甲府市の現状について
(3) 令和7年度多文化共生推進事業実績及び
令和8年度多文化共生推進事業実施計画について
(4) その他

6 議事進行

議事（2）甲府市の現状について

【事務局説明】

では、【議事（2）甲府市の現状について】をご説明します。【資料1】をご
覧ください。

こちらの資料は、山梨県内の在留外国人の数が、市町村別かつ国籍別に集計
されているものであります。山梨県では令和7年6月末に24,000人を超
えていまして、その内の7,733人が、甲府市に居住しております。
甲府市に居住している外国人を国籍別でみると、一番多いのは中国、次いで
ベトナムと続いております。

次に、「甲府市の総人口と外国人登録者の推移」をご覧ください。こちらの
資料では、甲府市の総人口は減ってきていますが、外国人の人口は増えていま
す。

次に、「国籍別人員調査票」です。こちらは、今年の3月末の数字となります。
各国ともに増加傾向となりますが、こちらに記載がない国籍も含めると、
インドネシア、ネパール、ベトナムなどの増加率が高くなっています。
続いて「在留資格別の人員調査表」をご覧ください。この集計は3月末
時点の外国人人口を在留資格別に表しているものになります。留学生は

ねんねんふ ことし がつまつじてん にん こ
年々増えておりまして、今年の3月末時点で1, 700人を超えております。
また、「その他」には増加傾向にある「特定技能」を含んでおり、令和8年3
がつまつじてん にん
月末時点で537人となっております。

つぎ ねんれいべつじんこう にほんじん がいこくじん ねんしょう せいさんねんれい ろうねん
次は「年齢別人口」になります。日本人と外国人を、年少、生産年齢、老年
じんこう の3つの区分に分けてあります。日本人は生産年齢人口が1番ではありま
すが、老年人口の割合が高く、外国人は生産年齢人口が特に高いことが分かり
ます。

さいご しりょう まちべつじんこうとうけいひょう まち そうじんこう し
最後の資料になりますが、「町別人口統計表」です。その町の総人口に占める
がいこくじんわりあい たか えり あ けいさい りゅうがくせい おお きょじゅう さかおり
外国人割合の高いエリアを掲載しています。留学生が多く居住する酒折1・
ちやうめ だんち しもがわらちやう がいこくじんわりあい とく たか けっか
2丁目や、団地のある下河原町などの外国人割合が特に高い結果となっております。

いじょう どうけい で - た こうふし げんじやう せつめい お
以上、統計データによる「甲府市の現状について」説明を終わります。

しつもん いけんどう
【質問・意見等】

とく
特になし。

れいわ ねんど たぶん かきようせいすいしんじぎやうじっせきおよ せつめい
(3) 令和7年度多文化共生推進事業実績及び令和8年度多文化共生推進
事業実施計画について

じむきよくせつめい
【事務局説明】

ぎし せつめい
議事(3) 令和7年度多文化共生推進事業実績及び令和8年度多文化共生
推進事業実施計画について、ご説明申し上げます。

しりょう らん れいわ ねんど じぎやうじっせき れいわ
まず、資料2をご覧ください。令和7年度の事業実績につきましては、令和3
ねんど れいわ ねんど けいかくきかん こうふし たぶん かきようせいすいしんけいかく
年度から令和7年度までを計画期間とする「甲府市多文化共生推進計画20
21」に基づき実施した事業の実績となります。色が付いている部分をご覧ください。
こちらは、事業ごとに令和8年3月末時点の実績を記載しております。
みぎ れつ いちねんまえ れいわ ねん がつまつじっせき ひょうか
右の列は、一年前の令和7年3月末実績となっております。評価につきましては、
さいしゅう ペー じ きさい ぜんねんじっせき うわまわ あたら
は、最終ページに記載がありますが、Sは前年実績を上回り、かつ新しい
じぎやう おこな ぜんねんじっせき うわまわ ぜんねんじっせき どうとう
事業を行ったもの、Aは前年実績を上回ったもの、Bは前年実績と同等のもの、
Cは前年実績を下回ったものとしております。なお、時間の関係上、
とくちやうてき ひょうか じぎやう かんたん せつめい
特徴的なものとして、A評価の事業のみを簡単に説明させていただきたいと
おも
思います。

まず、「基本施策1-1 医療・保健・福祉サービスの提供」について、2ページ目をご覧ください。事業番号4の「介護保険制度の周知」「介護保険のしくみ【情報提供】」ですが、介護保険証発送時に、多言語による介護保険のしくみについての説明書を、転入してきた外国人に100%同封できたことから、「A」評価となっております。

次に、3ページをご覧ください。「基本施策1-2 災害・防災への支援整備」事業番号4の「自主防災組織等への外国人市民の参加促進」については、10月5日に実施した甲府市総合防災訓練において、会場近隣の企業へ参加の働きかけを行った結果、数名の外国人に参加していただけたことから、「A」評価となっております。

続いて、4ページをご覧ください。「基本施策1-3 情報の多言語化と相談体制」事業番号3「日常生活における相談窓口の設置」については、これまで通常の窓口にて相談を受け付けていましたが、会議室を開放し、個室の相談室とすることで、相談環境の向上を図り、より多くの相談を受け付けることができたため、「A」評価となっております。

続いて、6ページをご覧ください。「基本施策2-2 日本語の学習支援と充実」事業番号1「個別教育相談の実施」についても、昨年度よりも多くの教育相談を実施できたとして、「A」評価となっております。

また、同ページ最下段にございます、事業番号6「日本語の学習機会と情報提供」については、令和7年度より従来の日本語教室に加え、働いている方、子育てをされている方、子どもたち、高校進学を目指す方など、対象者を分け、ライフステージに応じた日本語教室を開催し、より多くの外国人市民に受講いただくことができたことから、「A」評価となっております。

続いて、8ページをご覧ください。「基本施策3-2 多文化間交流の推進」事業番号6「国際交流員の活用」について、フランス人国際交流員ファニー・オランジュによるフランス文化講座を、放課後児童クラブや高齢者学級などの幅広い年齢層に向け、20回実施し、昨年度より多い、のべ676名の方に参加いただくことができたため、「A」評価となっております。

最後に、9ページをご覧ください。「基本施策4-3 留学生の地域における就職促進」事業番号1「地域における留学生の就職促進」については、6月に開催された県央ネットやまなし合同企業説明会について、市内4大学の担当者および留学生プラットフォームを通じて周知を行うなど、情報発信

を強化し、昨年度よりも多くの外国人に参加いただけたことから、「A」評価
となっております。

資料2についての説明は以上です。

続いて、「令和8年度多文化共生推進事業実施計画」の説明をさせていただきます。
こちらの表は、本年3月に策定した「甲府市多文化共生推進計画2026」に基づき、各課が実施する取組についてまとめたものになります。

「甲府市多文化共生推進計画2026」は、「互いを認め合い すべての人が
活躍し 幸せに暮らすまち甲府」を基本理念に、基本目標1

「コミュニケーションで築くまち」、基本目標2「心豊かに暮らすまち」、
基本目標3「地域でつくる多文化共生のまち」、基本目標4「国際交流が
広がるまち」の4つの基本目標を柱に構成しています。施策の順番や名称
は変更となっているものもありますが、各課において基本的に前計画から継続
して取組を実施することとしております。

その中で、新たに追加となった取組がいくつかございますので、抜粋してお伝
えさせていただきます。

まずは、1ページ目の基本施策1-1「日本語学習機会の充実」の①

「日本語教室の開催」についてです。日本語教室は、先ほどの実績報告でも
お伝えしましたとおり、昨年度からこれまでの「甲府市日本語教室」に加え、
「甲府市日本語教室N4エディション」として、参加者のライフステージに
応じた授業内容の教室を実施しているため、事業に追加いたしました。なお、
昨年度受講いただいた方や、より高いレベルを目指す方のために、本年度より
日本語能力試験N3レベルを目指す方を対象とした日本語教室も開催する
こととしています。

続いて、6ページ目をご覧ください。基本施策3-1「多文化共生について
の意識啓発」の②「小・中学校における多文化共生教育の推進」について
は、昨年度市内の日本人・外国人市民及び企業を対象に行ったアンケート
調査において、多文化共生推進のために重要だということとして、「幼少期
からの多文化共生教育」との回答が多く、本市としても重要であると考
えたことから、新たに追加しております。また、③「多文化共生のための人材
育成研修・講座の開催」については、昨年度より、本委員会の委員長であり
ました秋田辰巳教授および今年度の委員長を務めていただきます萩原孝恵教

授に講師を務めていただき、「多文化共生セミナー」を開催しています。こちらについても、施策として新たに追加しました。

次に、基本施策3-2「伝わることばを育む取組」の②「地域社会への「やさしい日本語」の普及」については、これまで市役所職員向けに「やさしい日本語」を活用するためのセミナーを実施していましたが、外国人市民を受け入れる側となる市民や企業にも対象を広げ、地域全体で外国人市民へ伝わりやすいことばを使用できることを目指し、新たに施策に追加しております。

最後に、7ページをご覧ください。基本施策4-1「外国人の活躍機会創出」の①「留学生の生活等に関する支援」の2つ目「留学生プラットフォーム（こうふ留学生ネットワーク）の運用」については、Instagramを通じて本市の留学生向けに生活情報やイベント情報を発信するための「こうふ留学生ネットワーク」の運用を令和6年度より行っておりますので、今回より改めて施策として追加しております。

それ以外の施策につきましては、各課において必要に応じて内容を改善しながら、継続して実施していくこととしております。

以上、令和7年度事業実績および令和8年度事業計画についての説明を終わります。

【質問・意見等】

（サジャド委員）

母子健康手帳は、日本語と英語以外の言語のものも用意されているか。

（事務局）

日本語と英語以外に中国語、韓国語、ポルトガル語、タイ語、スペイン語、タガログ語、インドネシア語、ベトナム語の用意があり、希望に応じてお渡ししている。

（萩原委員長）

母子健康手帳が多言語化されているという情報発信はしっかりとできているか。多言語資料や各種支援等が用意されていても、外国人まで情報が届いていないケースが多くある。

(事務局)

ホームページ等に記載して周知はしているが、それだけだとなかなか届かない部分もあるので、考えられるところを新たに増やししながら周知を試みている。

(サシャド委員)

病院やクリニックなどの医療機関で妊娠が確認され、医師や助産師から母子健康手帳の申請を促された段階で利用する『甲府市こども育み予約サイト』のアンケートにも、母子健康手帳の交付がWeb予約制であり、妊娠届出書もWeb問診で回答できることに加え、母子健康手帳を多言語で用意できることを記載すると良いのではないかと。

(萩原委員長)

せっかく市役所で行っている取組とその業務がまだ連携できていない、周知されていないところが今後の課題であるといえる。

(事務局)

担当課へ確認させていただく。

(徐委員)

長期間甲府市の多文化共生推進に関わらせていただいているが、どんどん内容が良くなっていると思う。外国人の数が増えてきている中で、経営ビザで来られている方など、意外と学生よりも日本語が初心者の方が多くいる。日本語教室を進めたりしていただいているが、なかなか参加まで踏み出せない方もいる。地区の日本人も外国人もどちらも参加できて、互いに交流できるようなイベントがあると良いと思う。

(事務局)

そういったイベントとしては、「やさしい日本語会話・異文化体験サロン」という、日本人と外国人と一緒に日本文化を体験できるようなイベントを年4回くらい行っている。今後さらにやり方を工夫していけたらと思う。

(三井委員)

日本語教室について、色々な教室を実施している中で、どの教室に一番
需要があるのかなど教えてほしい。また、「市内企業ではたらいっている方のた
めの日本語教室」と「仕事のための日本語教室」は何が違うのか。

(徐委員)

特に入門レベルの教室は人気だと思う。来日する外国人が皆教育機関に通
えるとは限らないので、どうしても入門レベルから勉強できる教室が一番
重要ではないかと思う。

(渡辺委員)

確かに入門の日本語というのは大事だが、どちらかというと受入環境をどう
やって支援するかという方が、今需要があると思う。日本に来る方はある程度
努力もされたり、日本語教室の受け皿などもあるが、企業側のリテラシーが
ないとやはり難しい。マッチングはできるけれども、定着支援に力をいれ
ていくタイミングなのかなと個人的には感じている。

(三井委員)

日本語教室はとても良い取組だと思うので、どこを拡充すべき／どこが足り
ないなど今後また考えて行っていたいただければと思う。

(事務局)

「市内企業で働いている方のための日本語教室」と「仕事のための日本語
教室」はどちらも仕事で使う日本語を勉強するものだが、前者は企業の
担当者から申し込め、従業員の方を対象にしているものである。後
者は、市内企業でなくて市外に働きに行っている方などを対象にしてお
り、ここが違うとなっている。内容に関しては、どちらもN4レベルを目指すことを
想定したものである。

人気がある教室は、就労の部分に関しては、日本に入ってくるときにN4
レベルが必要ということもあるので、すでにN4レベルを持っている方もいた
が、コミュニケーションを取るためにもう一度学びたいという企業は多かった

ので、人気があった。企業の方から、今度はN3レベルをやってほしいという
声があったので、今年度から新たに教室を追加した。

また、子育てをされている方がなかなか日本語を学ぶ機会がないという意見が
アンケート調査結果で挙がってきたので、子どもと親が同じ日の同じ時間に
隣の教室で日本語を勉強できるように計画をした。最初は参加者が少な
かったが、続けるにつれて同じ境遇、ネットワークを持っている人たちに広が
り、参加者が増えてきた。

高校進学を目指す方のための日本語教室については、定員に到達しなかつた
ので、今年度は教育委員会とも連携し、学校から通知を配っていただくなど、
様々な場所で周知を行っている。

昨年の実績をお話すると、市内企業で働いている方のための日本語教室は
累計で239名、仕事のための日本語教室は累計203名、子育てをされて
いる方の日本語教室は累計55名、子どもたちのための日本語教室が累計8
9名、高校進学を目指す方のための日本語教室が累計53名となっている。

(三井委員)

需要だけでなく、潜在的なところにも働きかけており素晴らしいと思う。

(萩原委員長)

子どもたちのための日本語教室は何歳を対象としているのか？

(事務局) 令和7年度は末就学児から小学生までを対象に実施した。今年度
は、委託事業者と協議する中で、末就学児のケアのため授業の進行に支障が
出るケースがあったため、一旦小学生のみを対象としている。来年度以降、
対象年齢についてはまた協議したいと考えている。

(萩原委員長)

高校進学を目指す方のための日本語教室の対象は中学生となっているが、
高校生がしっかりと高校を卒業できることも重要なので、今後対象を拡充
することについてはぜひ検討していただきたい。

(事務局)

現時点でそのような教室は開催していないが、そういった声をいただいているため、他市の動向も参考にしながら今後検討していきたいと考えている。

(畑委員) 総合防災訓練についての評価が少し甘いのではないかと。実際に

集 会 場 で 行 う 場 合 は 甲 府 市 が 中 心 に 動 く た め 企 業 等 に も 声 を か け ら れ る が、
1 1 月 に 各 地 区 で 行 う 訓 練 は ほ と ん ど が 回 覧 板 で 周 知 す る た め、自 治 会 に
加 入 し て い な い と 情 報 が 流 れ て こ な い と い う 問 題 が あ る。外 国 人 の 方 も、
自 治 会 に 入 っ て も ら え る と、子 ども 向 け の イ ベ ン ト や 運 動 会 な ど、地 域 の
イ ベ ン ト を 流 す こ と が で き る。た だ し、自 治 会 費 が か か る こ と も あ り、加 入 の
ハ ー ド ル が 高 い 面 も あ る。そ れ で も、地 域 と の 関 わ り を 持 て る よ う に な る こ と
で、は じ め て A 評 価 に な る の で は。

(事務局)

昨 年 は、協 働 推 進 課 の 職 員 が 日 本 語 教 室 で 自 治 会 加 入 に つ い て 説 明 し、
自 治 会 加 入 の メ リ ッ ト な ど を 外 国 人 の 方 に 伝 え る 機 会 を 設 け た。た だ し、ご
指 摘 の 通 り、一 度 だ け で は 不 十 分 で、各 地 区 で 繰 り 返 し 行 う 必 要 が あ る と
認 識 し て い る。引 き 続 き 連 携 し て 取 り 組 ん で い き た い。

(サジャド委員)

素 晴 ら し い 意 見 で あ る。甲 府 市 に は い く つ か の 外 国 人 コ ミ ュ ニ ティ が あ る た め、
コ ミ ュ ニ ティ か ら 自 治 会 に 参 加 す る 人 が 増 え れ ば、外 国 人 を 地 域 の 社 会 活 動 に
効 果 的 に 卷 き 込 む こ と に つ な が り、自 治 会 と 外 国 人 コ ミ ュ ニ ティ の 双 方 に と っ
て メ リ ッ ト が あ る。ま た、自 治 会 へ の 加 入 方 法 を よ り 簡 単 に し、外 国 人 が『誰
に、ど の よ う に 連 絡 す れ ば 加 入 で き る の か』を 分 か り や す く す る と、加 入 し や
す く な る と 思 う。甲 府 市 で 行 っ て い る 取 組 な ど、外 国 人 コ ミ ュ ニ ティ に 周 知
し た い こ と が あ れ ば、ぜ ひ 声 を か け て ほ し い。

(渡辺委員)

例 え ば 留 学 生 な ど が 数 年 間 日 本 に 住 む た め に 毎 月 自 治 会 費 を 払 う か と い う と、
あ ま り 現 実 的 で は な い の か な と 感 じ る。一 方 で 防 災 訓 練 に つ い て は、
イ ン バ ウ ン ド の 方 が い る 中 で、住 民 だ け ・ 自 治 会 だ け と い う 枠 だ け で 行 っ て

しまうことは危険きけんだと思う。自分の住おもんでいる地じ域ぶんで被災すするとは限ちらないの
 で。被災ひさいしたとき、どういさーうサービスびすがあるか、どうやじょうほうって情え報ほうを得えるかな
 どを伝つたえることが重じゅうよう要ようではないか。

はたいいん
 (畑委員)

くにべつ こ み ゅ に て い はなし にほんじん がいくこ きょうみ も
 国別コミュニティがあるという話 もあったが、日本人も外国語に興味を持っ

ている人が多い。日本語を教える一方で、外国の方に自分の母語を教えてもら

う場があれば、相互の学びになる。外国人同士だけで閉じたコミュニティにす

るのではなく、日本人も交えたコミュニティにしていくことで、生活もしやす

くなるのでは。そうした場の間口を広げていくことも検討していただきたい。

はぎわらいんちょう
(萩原委員長)

甲府市はここ10年間でとても変わったと思う。最初の頃はやさしい日本語を知らないところから始まったが、今では当たり前になってきている。ただ、やさしい日本語は最初のステップにすぎないため、これからはもう言葉だけの問題ではないという話をこの委員会で進めていけたらと思う。

また、日本語教室は、マタニティの方も参加できるといい。子育て世代は同じくらいのお子さんがいて、同じような悩みを持っていたりするので。母子手帳を配るときに教室の案内もできる。

(^{はたいいん}畑委員)

^{こうふし}甲府市には^{まいほけんし}マイ保健師という^{せいど}制度もあるため、その^{へん}辺が^{いりぐち}入口になっていくかとおも^{おも}う。

わたなべい いん
(渡辺委員)

かぞくたいざい おっと にほんご はな つま はな ば た ー ん ひじょう おお
家族滞在で 夫 は日本語を話せるが妻は話せないというパターンが非常に多い。

かぞくたいざい かた さんか にほんご きょうしつ にほんじん ふ あ きょうしつ よ
家族滞在の方が参加する日本語教室で、日本人と触れ合える教室があると良
いのではないかと。伝えようとする気持ちと受け取ろうとする気持ちが全てでは
ないかと思うので、そんな風に変わっていける委員会なのかなと頼もしく感じ
ている。

(萩原委員長)

ゼロでも安心して来てくださいという教室があると、奥さんだけ日本語が話せず家にいるなどのつながりがない人たちを減らしていけるのではないかと。語学を教えることはAIでもできるが、AIで伝わらないことを、心で伝え合うという感覚を同じ場所に集まって体験してもらい、仲良くなるというのが必要かと思う。

(事務局)

補足をさせていただくと、甲府市では「甲府市日本語教室N4・N3エディション」と、前から実施している「甲府市日本語教室」というものがあり、後者はどのレベルの方でも参加できる教室となっている。また、「やさしい日本語会話・異文化体験サロン」という、全ての日本語レベルの方が一緒に土器を触ったり茶道を体験したり、日本人パートナーとコミュニケーションを取りながら楽しめる教室も開催している。やはりもっと機会や参加者を増やしていかなければならないと認識しているので、委員の皆様のご意見をいただきながら続けていきたいと考えている。

(佐藤委員)

外国人専用のアプリがあると良いのではないかと。日本語教室や子どもが生まれる場合の事務関係、自治会の入り方、防災関係など、そこを見れば知りたい情報が分かるようなものがあると便利かと思うが、そういったものは実績としてあるのか。

(事務局)

現在、市内に1,400人ほどいる留学生向けの「こうりゅうネット」というものを構築しており、インスタグラムを活用して、イベント情報や防災情報などを分かりやすく（「逃げてください」などの表現や英語表記）発信している。ただ、市内在住の外国人住民全員に情報が届いている状況とはいえない。国際交流協会が国籍別コミュニティを把握していただいており、そこを通じて情報発信もしているが、ご指摘のようなアプリや共通プラットフォームについては、今後検討が必要だと感じている。

(高岸委員)

私の地区(団地)でも、外国人住民、特に中国の方が多く、防災関係の案内を配布して説明もしているが、なかなか訓練に参加してもらえない状況がある。いざ災害が起きたときにどうするかが一番の課題となっている。また、団地内で実際に300人規模で避難できる場所がなく、連合集会所も県管理で、県に働きかけはしているが、受け入れ人数に制限があるなど、現場として課題がある。

(事務局)

私もとしては、たとえば自治会が配布するチラシを多言語化するお手伝いをする仕組みを新たに検討している。自治会が作成する周知チラシを、市が翻訳・多言語化し、外国人住民にも情報が届くようにする構想。事業として整理でき次第、改めてご説明し、地域の皆様と連携していきたいと考えている。

(畑委員)

補足だが、避難所については、その地域に住んでいる外国人だけでなく、たまたま出張で来ていた日本人なども含め、誰であっても避難を拒むことはできないのが原則である。意外と知らない日本人も多いが、誰でも困ったらその場で避難所に入って問題ない。

(サジャド委員)

取組は素晴らしいが、災害時の避難所など、外国人にとって必要な情報の周知が十分でないことが課題であると思う。また、外国人向けのごみの分別方法などの情報は、マンションやアパートの掲示板などにも掲示すると良いのではないか。甲府市ホームページに掲載するだけでは、アクセスする人が限られる。例えば、指定ごみ袋にQRコードを付け、分別方法を簡単に確認できるようにするのも良いと思う。

(徐委員)

武蔵野市などは年に1回ごみ出しカレンダーを配布している。イラストやキャラクターを使って、毎日何のごみを出せるかが分かるようになっている。このように、外国人にも分かりやすく伝える工夫が必要だと思う。

議事(4)その他については、令和8年度の甲府市多文化共生推進スケジュールについて事務局より説明を行い、議事終了。